



高橋教授の

この人に
会いたい

Vol.45

ゲスト

本郷浩二

氏 林野庁長官

日本の山林は近年、手入れが進んでいないことなどを背景に、花粉症、あるいは水害の一因になっているとの指摘がある。一方で中国人資産家による「水源林」の買収などもマスコミをにぎわせた。現在、日本の山林では何が起きているのか。今回、高橋泰・国際医療福祉大学教授は同級生でもある、本郷浩二・林野庁長官を訪問し、話を聞くことにした。

日本の林業は低迷、底打ち期を脱却 「所有者不明地」問題を解決して新段階へ



「ヒバでつくられた街」での
原体験を背景に林業の道へ

高橋 本日のゲストである本郷浩二長官は、私の通った金沢大学附属高等学校の同級生です。サッカー部で活躍していた姿が印象に残っているだけに、京都大学農学部林学科に進んだと聞いて驚いたことを覚えています。なぜ林学科に進んだのですか。

本郷 思い当たる原体験が2つあります。一つは泰ちゃん……いや、

官庁とは仕事の進め方が異なりま

外国材に押される国内材
背景に安定供給での劣勢

高橋 現在、日本で消費する木材のうち、国内材の割合は37%程度と聞きます。外国材のほうが安いのですか。

本郷 いえ、むしろ国内材のほうが安価です。しかし、安定供給の面で大きく差をつけられています。外国材は輸送船で運ばれ、港に大量に積み重ねられている状態で、欲しい時にすぐに供給できます。国内材のほうは必要となるとその都度、山から切り出します。需要に

高橋 なぜそのような違いが生まれるのでしょうか。

本郷 国内材は戦中、戦後に木を伐りすぎたために、この40年間は植林したものを育てることに専念した時期が続きました。その間、収入がないので設備投資や技術革新もできず、必要な時に必要な量

高橋先生もご存じのクラスメート、石坂君と幼なじみで、彼の家によく遊びに行っていたのですが、材木業を営んでおられたのです。私たちの出身地、金沢市は「ヒバでつくられた街」といわれるほどで、材木屋にはたいいヒバが並んでいました。その香りのなかでかくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたりしていたのです。もう一つは、私の生家の近くに里山があり、毎日のように川や山で遊んでいましたから、虫や森に親しみを感ずるようになっていたのでは

を届けるだけの供給体制を整えられなかったのです。

高橋 需要に対する機動性を阻害する要因は何ですか。

本郷 最も大きな問題は、伐採した木を運び出すインフラが整っていない点です。林道の整備状況は遅れています。そもそも欧米などと比べて地形、地質が不利なので、欧米は一般に地形がなだらかだし、地質も古いので地盤が固く、道路も整備しやすい。一方、日本は、山は険しいし、地質は新しいし雨も多いので道をつけても、間違えらるとどんどん崩れてしまします。

高橋 それにしても、昔は「山持ち」といえばお金持ちの代名詞のように言われていましたが、実際はどうなのでしょう。

本郷 その現象が起きたのは戦後復興のなかで国内材の需要が急増した一時期に限られるでしょう。先ほどお話ししたように、戦中に木を伐りすぎて材木が激減してしまつた。一方で復興のために材木が必要だけれど、国力がないので外国材は買えない。そこで、国内

う。大学進学にあたって、当初は原子力工学分野を学ぼうと思ったのですが、進路指導の倉先生からアドバイスを受けたのです。

確かに、林野庁の役人はいわゆる「霞が関のお役人さん」とは、かなり異質ではあります。

高橋 ああ、倉先生はよく覚えて
います。
本郷 「原子力工学はストレスが
すごいから止めたほうがいい」と。
それで、なじみ深い森林の分野に
進んだのです。最後は森林生態学
研究室にいました。

高橋 その後の進路にも驚かされ
ました。本郷君……いや、本郷長
官は行政とは最も縁遠い人物と
思っていましたから。

本郷 そうかなあ(笑)。私とし
ては、違和感はなかったし、また

本郷 結局、林野行政は現場主義
で、いつも山林に入っていました
から。また、当時の国有林は独立
採算を基本としていたので、材木
を売って収益を上げ、支出分を賄
う必要がありました。ただ、なか
なかうまくいかず、最終的には3
兆8000億円の債務を抱えるこ
とになりました。1998年に一
度整理したのですが、それでもま
だ債務は残っており、今も返済を
続けています。その意味でも他の

撮影=安西美樹



農林水産省は外局の林野庁、 水産庁も含めて、急速に IT導入が進んでいる——高橋

高橋 泰

Tai Takahashi
国際医療福祉大学教授
たかはし・たい●1986年、金沢大学医学部卒業。同年、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部医学系大学院医学博士課程修了(医学博士)後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2016年9月より安倍内閣未来投資会議の構造改革徹底推進委員会医療福祉部門副会長

ないので放置され、持ち主も都会へ出てしまうので、誰の土地かわからなくなるのです。誰が相続しているかもわからず、何も処分できない

きない土地になる。現在、法務省が所有者不明になった土地を行政が利用できる法案を準備しているそうです。
高橋 山を放置したままにする
と、何が起るのですか。
本郷 山崩れや土石流などの災害を招く大きな要因になります。山が雨水を吸収するには木が根を広く、深くはらなければなりません。間伐しなければ木が「密」の

状態になります。そうすると、根は横に広がらない。横に広がらない根は縦に深くはることもないので、根の浅い木が増えるわけです。そうすると、山崩れが起きやすくなります。近年の土石流災害では流木が被害を大きくしていると報告されていますが、根の浅い木が一緒に流されてしまうのです。
高橋 間伐だけして、切った木はそのまま放っておくというのは難しいのですか。
本郷 切った木ははずれ肥やしになります。でも、間伐するたのめ費用が丸ごと「持ち出し」になってしまいます。そこで現在、切った木を少しでも収入につなげる道を模索しているのです。また放置された土地についても、市町村が預かって整備できるように、森林環境税として住民税に上乘せして徴収し、国から森林のある市町村に分配して、必要な整備の費用にしてもらうようにしています。
高橋 入省以来40年近く、一貫して森林行政にかかわってきたわけですが、まさに激動の時代を過ごされたようですね。

本郷 木材の価格が最も高かったのは1980年といわれていますが、私はその2年後の82年に入職しました。当時はまだ「山持ちバブル」の余韻が残っていたのですが、そこから一直線に丸太価格が下がり、今は横ばい。自給率は2002年に底打ちします。そこから徐々に上がっており、今はまだ採算が合っており、今は途上段階と考えています。
高橋 農林水産省は外局の林野庁、水産庁も含めて、急速にIT導入が進んでいるようです。IT活用も本格化するのではないですか。
本郷 今後はデジタルデータを使いながら、「こんな家を建てるので、こんな材木が欲しい」という需要と、「最適な材木がすぐ近くから届けられる」という供給をマッチングするようなことが可能になると思います。林業従事者の平均年収もこの数年で10%以上上がっていますし、新しい可能性を追求していきたいと思っています。
高橋 ありがとうございます。



中国人による土地購入より、「所有者のわからない土地」が増えていることのほうが問題——本郷

本郷 浩二

Koji Hongo
林野庁長官
ほんごう・こうじ●1978年3月、金沢大学附属高等学校卒業。82年、京都大学農学部林学科を卒業、林野庁に入庁。94年8月、熊本営林局企画調整室長。2000年8月、福井県農林水産部林政課長。03年4月、林野庁林政部経営課課長補佐(総括)。林野庁国有林野部業務課長、林野庁森林整備部計画課長などを経て、13年7月、林野庁森林整備部長。16年8月、林野庁国有林野部長。18年7月、林野庁次長に就任。19年7月、林野庁長官。

材の価格が高騰したのです。全国紙などが「国有林をもっと伐採すべき」と書き立てたのはその頃です。

高橋 潮目が変わるのはいつですか。
本郷 1964年に外国材輸入が自由化され、流れが変わります。高騰した国内材に比べて安価、加えて太い天然林の輸入材のほうに人が集まるのは自然な流れで、住宅メーカーはあつという間にさらに切り替えました。そうすると、国内材は売れなくなるし、手入れも進まなくなります。手入れ

は「設備投資」の一つととらえることができず、そのための収益も確保できません。子や孫のためにと買って植林したのに、それが財産とはならず、放置してしまうようになったのです。

「中国のお金持ちが日本の山を買う」背景

高橋 中国の資産家が日本の山林を買って水源を押さえてしまうという話も聞きます。

本郷 資産価値が認めにくいなかで、買手がいるなら引き取ってもらおうと所有者が考えるのは無理のないことです。一方、中国では土地の私有が禁止されているので、中国の資産家としてはお金の投資先がない。そこで日本の山に目をつけた。そんな構図です。林業の関係者にとっては「どうして資産価値のない山を買うのだろう」と首をかしげる事態が起きているわけで、「もしかしたら水源ではないか」という推論に行き着く人がいたので。それにマスクミが飛びついて、大騒ぎになった

というのが私の見方です。そもそも山を買っただけでは水は出ません。水が欲しければ井戸を買ったほうがよほどたくさん出るし、水利権の問題もあります。「水源林」という言葉が誤解を招いた面もあるでしょうけれど。
高橋 どのくらいの土地が買われているのですか。
本郷 せいぜい毎年2000〜4000ヘクタールでしょうか。大きい物件があるときは20000ヘクタールくらいになります。でも、そもそも大半が別荘地ということですから、あまり大きな話にはなりません。

所有者不明の土地が急増「九州と同じ面積」に

本郷 中国人による土地購入より、「所有者のわからない土地」がどんどん増えていることのほうが大きな問題です。現在は九州とほぼ同じ面積の広さになっていますが、いずれ北海道と同じくらいになるだろうと言われています。先ほどお話ししたように資産価値が